

京都学生祭典学生実行委員に対する活動を通じた成長実感調査

1. 調査概要

2015年度より、京都学生祭典の運営活動における実行委員の成長効果（教育効果）を測定・検証します。祭典活動前後で外部のアセスメント活用やインタビュー調査を行い、多様な活動との相関、学生の特長、ジェネリックスキル、プロジェクトマネジメントスキル等についての変化を、部署・役職・活動ごと等にわけ把握します。また、祭典後、学生自身に活動を振り返らせた上で、特徴的な学生に対してインタビュー調査・分析を行い、成長実感や身についた力を客観的かつ定性的・定量的に分析することで、この活動が学生の成長にどのように寄与するのかを明らかにします。



2. 調査計画（予定）

① 活動前後における能力測定テストの実施（定量的調査）

調査方法	学生が活動前後で「ジェネリックスキル（コンピテンシーおよびリテラシー）」を測定できる外部アセスメントテスト（PROGテスト）を受験する。その結果を活動前後で活動ごと、役職の有無等により比較することで実行委員会に属する学生の特徴や活動から育まれる力量を明らかにする（後述④におけるインタビュー調査と連携する）。この比較分析により、活動前後で具体的にどのような力量が伸びたのかを把握すると共に、全国の同年代の学生群のデータと比較を行い、その成長度合を相対的に測る。
実施時期	1回目：4月上旬～中旬（4月以降の追加メンバーには、参加登録と同時に随時受験） 2回目：10月中旬（学生祭典終了から約1週間後に一斉受験）

② 学修行動アンケートの実施とテスト結果との関連分析

調査方法	学生のジェネリックスキルが伸びる要因として、実行委員会活動に限らず、日頃の大学での授業や研究、アルバイト、部活・サークルなど、様々な活動が考えられる。どのような活動によって力が身につく、その活動はどのような意味があったのか等について、アンケート調査を実施する。上記①で実施するテストの結果との関連分析を行い、実行委員会活動における教育効果を検証する。
実施時期	上記①の10月中旬に実施するテストと併せて実施

③ 学生へのテスト結果のフィードバックと振り返りワークショップの実施（定性的調査）

調査方法	上記①②の結果を踏まえて、自身の特徴や成長した力量等を学生にフィードバックし、振り返りワークショップを通じて学生の理解を深める。特に、2回目の結果フィードバックの際には、1回目から伸長が見られた力量について、各自でそのきっかけを振り返り、活動期間中の具体的行動（成長エピソード等）を記述させる。併せて自己の主観的評価に加えて、客観的評価の実施も検討する。
実施時期	1 1月上旬（2回目のテスト結果のフィードバックセミナーにて）

④ 京都学生祭典運営における成果・課題・解決策に関するインタビュー調査

調査方法	研修、PROGテスト結果の説明、中間振り返り会、祭典後のタイミング等による定期的なインタビュー調査を行うことによって、質的な成長の変化等を確認する。 その上で、祭典後におけるインタビューにおいてはジェネリックスキルの伸長が大きかった学生と、小さかった学生を役職の有無や活動ごとにそれぞれ数名ずつ抽出し、テストの各設問への回答データを参考に、力量が変化した（行動特性が変化した）きっかけとして、実行委員会活動中の具体的行動（エピソード）などをインタビューする。また、実行委員会活動全般（参加動機、参加して良かった点・悪かった点、課題感、改善案等）についてもインタビューを行う。インタビューは、学生の率直な意見を引き出すため、外部専門家との連携も視野に入れた調査を検討する。
実施時期	1月頃～12月中旬

3. 期待される成果

- 京都学生祭典実行委員会活動の教育効果（事業成果）を可視化できる。
- 祭典を通じた教育効果を説明することで、各ステークホルダー（加盟大学、協賛企業、自治体、地域住民等）に意義を理解してもらうことができる（さらなる連携につながる）。
- 実行委員会活動全般の成果と課題を把握することで、財団スタッフと連携し事業改善につなげることができる。

〒600-8216

京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都

TEL 075-353-9189 FAX 075-353-9101

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 学生交流事業部